



Press Release

平成29年11月9日

県内においてインフルエンザが流行シーズンに入りました

本県における平成29年第44週(10/30~11/5)の感染症発生動向調査で、インフルエンザの定点あたり報告数が65人(定点あたり1.10)となり、インフルエンザの流行開始の目安とされている定点あたり報告数「1」を超えました。

つきましては、手洗いや咳エチケット等の感染予防対策の徹底をお願いします。

1 県内のインフルエンザ発生状況 ※別紙(1)参照

平成29年第44週(10/30~11/5)のインフルエンザ定点医療機関(59か所)からの報告数は65人(定点あたり1.10)となり、流行開始の目安とされている「1」を超えました。

○県内の定点医療機関数

59医療機関(インフルエンザ定点医療機関)

○流行レベルに関する基準値等

国立感染症情報センターが過去の患者発生状況をもとに設けたもの。

- ・流行シーズン入り : 定点あたり報告数 「1」
- ・流行注意報レベル開始基準値 : 定点あたり報告数 「10」
※今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと等を示す。
- ・流行警報レベル開始基準値 : 定点あたり報告数 「30」
※大きな流行の発生または継続しつつあることが疑われることを示す。
終息基準値は、県全体の定点あたり報告数が「10」未満になるまで。

○昨シーズンの状況

- ・流行シーズン入り : 平成28年第48週(11/28~12/4)
- ・流行注意報レベル開始 : 平成29年第2週(1/9~1/15)
- ・流行警報レベル開始 : 平成29年第3週(1/16~1/22)
- ・流行警報レベル終息 : 平成29年第14週(4/3~4/9)

2 インフルエンザの感染予防対策等 ※別紙(2)参照

(お問い合わせ先)

福祉保健部 健康増進課感染症対策室 感染症対策担当

担当者: 高藤、郡司、立山、安部

電話: 0985-44-2620 (内線 2494)

県内のインフルエンザ発生状況

別紙(1)

(1) 県全体の発生状況

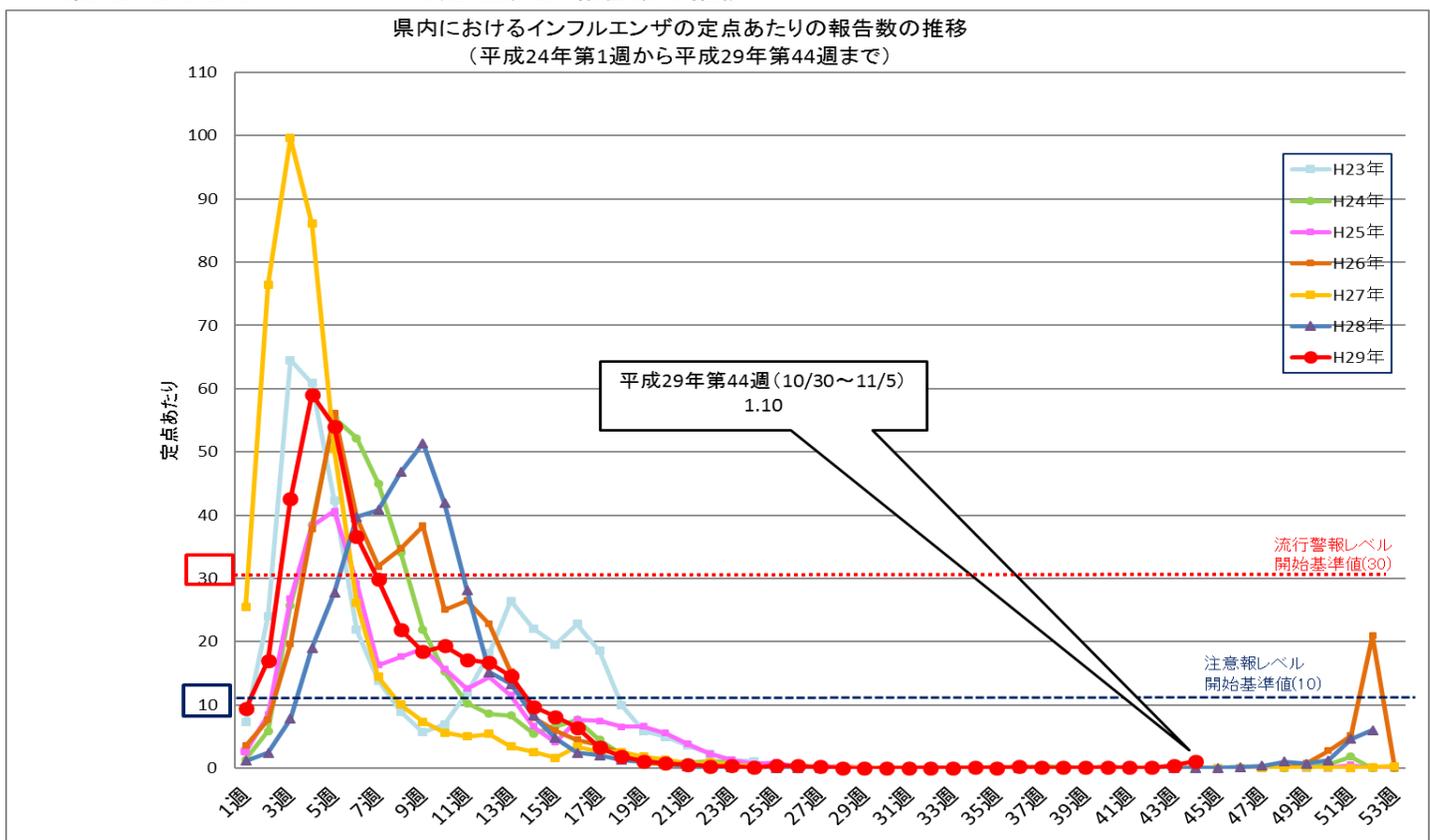
| 週数(平成29年) | 38週 | 39週 | 40週 | 41週 | 42週 | 43週 | 44週 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|-------------|
| 報告数 | 7 | 8 | 10 | 6 | 6 | 26 | 65 |
| 定点あたり | 0.12 | 0.14 | 0.17 | 0.10 | 0.10 | 0.44 | 1.10 |

- 【流行シーズン入り】 定点あたり「1」を超えたとき
- 【流行注意報レベル】 開始基準値: 定点あたり「10」を超えたとき
- 【流行警報レベル】 開始基準値: 定点あたり「30」を超えたとき
終息基準値: 定点あたり「10」を下回ったとき

(2) 平成29年第44週(10/30~11/5)の各保健所ごとの発生状況

| 地区名(保健所) | 宮崎市 | 都城 | 延岡 | 日南 | 小林 | 高鍋 | 高千穂 | 日向 | 中央 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 報告数 | 4 | 0 | 6 | 0 | 1 | 27 | 0 | 27 | 0 |
| 定点あたり | 0.25 | 0.00 | 0.86 | 0.00 | 0.20 | 4.50 | 0.00 | 4.50 | 0.00 |

(3) 県内におけるインフルエンザの定点あたり報告数の推移



(4) 過去の全国と宮崎県の発生状況

| 年 | 全国(報告数) | 宮崎県(報告数) |
|-----------------------------------|-----------|----------|
| 平成25年 | 1,166,322 | 18,282 |
| 平成26年 | 1,743,826 | 24,592 |
| 平成27年 | 1,169,041 | 25,693 |
| 平成28年 | 1,751,440 | 21,893 |
| 平成29年 (43週:10/29まで) ※11/9現在 | 1,375,399 | 23,146 |

インフルエンザとは？

1. インフルエンザとは？

- ・例年12月から3月頃を中心に発生します。
- ・子どもや高齢者では脳症や肺炎を併発する等重症化することがあるので注意が必要です。

2. どんなところで、何から感染するの？

○感染経路：飛沫感染、接触感染

感染した人の咳やくしゃみにより、飛沫とともに放出されたインフルエンザウイルスが鼻やのどの粘膜に付着したり、吸い込まれることによって感染します。また、インフルエンザウイルスが付着した物（ドアノブ等）を触れた手で鼻や目などに触れることによっても感染します。



3. 症状は？

○潜伏期間：1～3日

○症状：38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、鼻汁、咳など
発症後2～5日間はウイルスが排泄されるといわれています。

4. 感染を予防するためには

○手洗い

- ・石けんを使って丁寧にこすり洗いをし、水で洗い流します。
- ・手洗い後はペーパータオル等を使って手を拭きます。
タオルを使用する場合は、毎回タオルを交換するか、清潔な個人用タオルを使用します。
- ・水道の蛇口は、手と一緒に洗うかペーパータオルを利用して締めると、手の再汚染を防げます。



○咳エチケット

- ・咳やくしゃみが出る時はマスクを着用しましょう。
- ・咳やくしゃみをする時は他の人から顔をそらせてティッシュ等で口と鼻を覆いましょう。
- ・鼻汁や痰を含んだティッシュは、すぐに蓋のついたごみ箱や袋に捨て、その後は手を洗いましょう。

○適度な湿度の保持

- ・乾燥しやすい室内では、湿度を50～60%に保ちましょう。

○流行前のワクチン接種

- ・インフルエンザワクチンは重症化防止に有効といわれています。

○その他

- ・体の抵抗力を高めるために、日頃から十分な休養と栄養摂取を心がけましょう。
- ・外出時は、人混みを避けましょう。

5. インフルエンザにかかったら

- ・マスクを着用して医療機関を受診しましょう。
- ・受診の際は、事前に医療機関に相談し、受診方法を確認しましょう。
- ・発症から48時間以内であれば、抗インフルエンザウイルス薬が有効とされています。治療については主治医に相談しましょう。
- ・人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。